## 『極楽と地獄の食べ物』を味わう

子供の頃、母親から「極楽と地獄の食べ物」を聞きました。ガリガリに痩せ細った地獄の人々に長い箸が渡され、手に取って食べ物を口に入れようとしますが口に入りません。それでも自分が先だと言って、他の者を蹴り落として食べようとしますが食べられません。しかも、食卓に並んでいるのは豪華な食事なのに。

極楽の人々にも同じ長さの箸が渡されました。その長い箸で食べ物は他の人には届きますので仲良く口に入れて食べさせてやりました。そんな極楽と地獄の話を聞きました。

前に同じような話を仏教伝道会館発行の『新みちしるべ－釈尊・十大弟子より－おさめ 密行（みつぎょう）』に「我が身を立てんとせばまず人を立てよ」岡 亮二氏（龍谷大学名誉教授）のお話が載っておりました。お話の中に極楽と地獄の食事の光景が有り、この事は私たちの日常生活の中でも起こっているのではないでしょうか。仏教に「無財の七施」という言葉があります。全く財産を持っていない者でも、七つぐらいの施しはできると言うのです。

例えば、他人にやさしい言葉をかける、微笑みをもって他を迎える、老人や病人に座席を譲る、などなど。

このような行為には、財産はまったく関係ありません。しかもこのような行為こそ、人を心から喜ばせるとおっしゃって居られます。

昔、母から聞かされた話を思い出しましたが、今一度この事は考えさせられる事です。自分の身勝手な行動に気をつけたいものです。 合掌

（村田 太喜夫 記）

## 新入会員紹介

皆様、初めまして。昭和53年生まれの41歳、製造業で仕事をしております光本浩昭です。私が中原寺さんに最初にお世話になったのは2014年頃になります。

親友より前住職が無量寿経の講座をされていて、それに一緒に参加してみないかと誘われ、参加させていただきました。

さらに月日は流れ昨年、地元が広島なので祖父母の墓参りに行くことが難しいのでお寺で法要をしてもらえないか考えていたところ、中原寺さんに連絡し、快く引き受けてくださり、今では大変お世話になっております。

私は二十九歳の時にうつ病になりました。うつ病を克服した方法は自分に対する執着を手放すことでした。

それから仏教に興味を持ち、お勉強をさせていただきました。

曹洞宗でありますが奈良康明先生、お東でありますが小川一乗先生、本多弘之先生の講座に参加させていただき、仏教とは何か、真宗教学とは何かを勉強させていただきました。

前住職、住職よりこれからも仏教とは何か、真宗教学とは何か、生きるとは何かを学ばさせていただきたいとおもっております。宜しくお願い致します。

（光本 浩昭 記）

## 新役員紹介

1月26日の総会にて配布いたしました役員・理事の業務表に、多少の入れ替えがありました。

### 令和2年度 役員・理事

役員別 五十音順

| 役　職 | 氏　　名 | 担　　当 |
|---|---|---|
| 会　長 | 山奥　努 | 壮年会責任者 |
| 副会長 | 村田　多喜夫 | 子ども合宿 |
| 副会長 | 盛田　好一 | 法座司会進行・座主 |
| 理事代行 | 入月　正 | 会計・事業計画 |
| 理事代行 | 越田　修二郎 | 東京教区千葉組壮年会 |
| 理事 | 宇佐美　勇 | 行事計画 |
| 理事 | 河合　功 | 会計監査・業務監査・壮年会だより編集 |
| 理事 | 原山　建郎 | 壮年会だより編集 |
| 理事 | 福島　秀昭 | 壮年会だより編集 |
| 理事 | 福島　道宏 | 法座司会進行補佐 |
| 副会長 | 多田羅　健二 | その他 相談業務 |
| 理事 | 石井　保 | その他 相談業務 |

※来年の総会まで役員改選は出来ませんので入月氏・越田氏は理事代行と表示しました。
また多田羅氏・石井氏は任期中に担当役を離れますので下段に表示しました。

あなたと中原寺はいつもつながってます

中原寺では「YouTube」を活用し、前住職による法話を配信しておりますので、ご聴聞ください。

**編集後記**（壮年会だより：令和2年6月「春夏号」会報）

この壮年会だよりが皆さんのお手元に届く頃には、「非常事態宣言」も解除になっていることを期待しています。新たに、光本裕昭さんが加入されました。文字通り壮年の方です。前半の3ヶ月は全ての行事が中止になり、どうなることかと思っていましたが、どうにか発行できました。皆様の投稿をお待ちしてます。



Cyugenji Sounen-kai Dayori

# 壮年会だより

令和2年6月「春夏号」　中原寺仏教壮年会だより Vol. 29

新型コロナウイルスによる緊急事態宣言の間、皆さんは如何お過ごしになりましたか。識者によりますと、人類史はある意味で、異なった文明圏同士の接触による感染症蔓延の歴史とのことです。14世紀モンゴル帝国の支配圏拡大によるペストが大流行しました。次いで1492年コロンブスの新大陸発見により旧大陸（ヨーロッパ）の麻疹、天然痘、インフルエンザ等々が南米諸国に蔓延し、意図せざる生物兵器となり人口が激減、植民地になりました。1918-19年には“スペイン風邪”が猛威を振るいました。これはてっきりスペイン発祥と思っていました。実は当時アメリカで流行っていたインフルエンザを、第一次世界大戦に参戦したアメリカ兵がヨーロッパに持ち込んだのだそうです。当時のアメリカは新興の大国でした。そして今回の感染症は21世紀になってからの中国の著しい経済発展と関係があるのかもしれません。

妄想はこの程度にして、先行き不明で混迷の今こそ「これにつけてこそ、いよいよ大悲大願はたのもしく、往生は決定」（歎異抄第9条）といただき、お念仏の道を歩んでいきましょう。

## 【住・職・閑・話】

新型コロナウィルスの影響により、二月末よりお寺のさまざまな行事、法要が中止となってから数か月が経ちました。

その間、多くの皆さんが今までに経験したことのないような長期間の外出自粛生活を送っておられると思います。この壮年会だよりが皆さんの手に届くころには、少しずつ感染者の減少状態に向かっているとは思いますが、完全な終息にはまだまだ多くの時間が必要となりそうです。

コロナウィルスは「人と人との距離を遠ざける」病気と言われています。もちろん、お互いに感染予防のため、スーパーのレジに並ぶのに約2メートルの間隔をあけるなどの「ソーシャルディスタンス（社会的距離）」を保つという意味もあるのですが、お互いの心と心を遠ざけてしまったという意味も含んでいるのだろうと思います。

最近では「自粛警察」たる言葉も登場しました。これは外出の自粛や休業の要請に応じていない商店街や店舗などに対し、嫌がらせのような電話や貼り紙を貼るといった行為や人をさす言葉だそうです。これが段々とエスカレートしてきて、他県のナンバープレートを付けている車に嫌がらせの張り紙をしたり、宅配業者に「ちゃんと消毒してるのか」と、いきなり除菌スプレーのようなものを吹き掛けたりする人もいたと聞きます。また、医療従事者やその家族が差別的な言動にさらされることも多々あるそうです。

長く続く自粛生活でストレスと未知のウィルスへの恐れから、心に余裕がなくなり、「コロナの感染を止める」という正義の名のもとに言葉や態度に鋭いトゲがついてしまっているのではないでしょうか。誤った情報や思い込みによって他者を傷つけていることに自覚や罪悪感すら生まれることなく、自分は正しいことをしていると信じて疑わないのが、「自粛警察」の厄介なところです。

人間には三つの生き方があると言われます。一つには「本能に生きる」人です。本能に生きるとは、今さえ楽しければいい、他の人の迷惑なんか考える必要はないという独りよがりに生きることです。

二つ目は「徳に生きる」人です。道徳は大切ですが、相手の事情も考えずに道徳に縛られる生きかたは、他者を裁くことになります。「こうしなければならない、こうするべきだ」と執着するなかに自分自身を苦しめることにもなります。絶対的な正義（善）に対し、それに反したものは悪とみなし、否定・排除する生きかたです。

そして三つめが「宗教をもって生きる」人です。自分を省みる目を持つということ、不確定・不完全な自分の姿に気づかされた生きかたです。至らない我が身を自覚することで、「おたがいさま」「おかげさま」「ありがたい」という気持ちが湧き起ります。

私がかざしている正義や常識は正しいのだろうか、その正義を守るための手段に過ちはないだろうか、そういった問いのない人生を仏教では「驕慢（きょうまん）」といいます。自分は間違いない、ということを前提に「おまえは悪人だ」と言う人ほど、じつは自分の心が驕慢になっていることに気づかなければなりません。

日頃の生活の中で、いつの間にか自分の常識や正義を盾にして、周囲を取り締まっている「警察」になっていないか、気をつけたいものです。

よしあしの文字をもしらぬひとはみな
まことのこころなりけるを
善悪の字しりがおは
おおそらごとのかたちなり【親鸞聖人『正像末和讃』】
（よしあしという文字を知らない人はみんな、
真実の心を持った人です。
善悪の文字を知ったかぶりして使うのは、
かえって大嘘の姿をしているのです。）